

---

# 永遠の鎖

左月日右

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

永遠の鎖

### 【Nコード】

N1229A

### 【作者名】

左月日右

### 【あらすじ】

人間の負の感情から生まれる“シニガミ”。それは周囲に不幸をまき散らしながら、依代ヨリシロを求めさまよう。幼い頃から“シニガミ”に対抗する力を持っていた少年リクの、非日常的日常が今日も始まる。

## プロローグ（前書き）

はじめまして。左月日右サクキヒユウといたします。読みやすく、楽しめる小説を書いています。

## プロローグ

もはや遠く白い日、あの夢をみた。

いや、夢かどうかも定かではない。

限りなく透明な黒い空間で、そいつ…

天使のような白い羽を生やし、悪魔のよう黒いな瞳のそいつは言った。

「お前は己が名を示すことができるのか？」

微笑とも嘲笑ともとれる顔をしている。

(オレは)

「オレは、陸 鈴原リク」

名乗った瞬間、胸のあたりが熱くなるのを感じた。

そいつは“じつ”と、オレの眼を見ていた。

いや、眼と言うよりその奥を見てたのかもしれない。

そして、そいつは無邪気な子供のような邪悪な顔をして喋りだした。

「おもしろい… 鈴原リク、固い意志は世界を変える。運命とはかくも残酷に、そしてもっとも真実に近い。

お前はいづれ…」

暗闇が融けていく。世界が終わろうとしている。

「いづれ、また会うこともあるだろう…」

## プロローグ（後書き）

プロローグは本編とはあまり関係ないのですが… 少しでも興味を持ってくれたら幸いです。

初めて小説を書いたのですが、表現したい言葉が全然出てこなくて大変なものですね…

文章や描写など未熟者なので、まずは楽しんで書いていこうと思います。

#1 『いつもの始まり』(前書き)

学園ファンタジーです！大好きです。

少しでも楽しんでもらえたらうれしいです。



1時間目の先生のご到着だ。

「昼休みまでにバク（停滞型）2つを消滅させるわよ」  
オレは頷いた。

タツタツタツ

大切な休み時間を“シニガミ退治” 正しくは、未前防止 のために消費してるオレの青春ってどうよ？

なーんてこと考えながら、現場である美術室に向かっている。

「リン、時雨は？」

時雨はオレの愛刀の名前だ。

「もちろん、持っているわ」

そうはいつても、リンコはみるからに手ぶらなのだが。

ガラガラリ

美術室、奥よりの手前、彫刻のおいてある辺りに黒いモヤが見える。

「あれだな」

「はい」

とってリンコがオレに刀を渡す。

先ほどまで、何も持っていなかったリンコから時雨を受け取る。

リンコは“見える”ほかに、“見えなくする”能力をもっている。

いわゆる視鬼と呼ばれる能力者で、その系統の能力者の中でもリン

コは上位に入るだろう。

スウー… オレはおもむろに刀を鞘から抜いた。

んでオレの能力はと言うと、見たり聞いたり感じたりなど基本的初歩位なら何でもござれの万能型。

その中で一番得意としているのが“干渉”する力、ぶっちゃけると相手を殴ったり斬ったりしてダメージを与える力なのだ。

キイイ…イン

時雨が鳴いている。



#1 『いつもの始まり』（後書き）

どうでしたでしょうか？

ドンドン書いていきますのでよろしくお願いします。

感想、ご意見お待ちしています。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1229a/>

---

永遠の鎖

2010年10月28日00時42分発行